

◆過去問で確認ーセグメント会計(損益分岐点分析の応用その1)

Y社の以下に掲げる次年度の部門別損益計算書に基づいて、下記の設問に答えよ。
ただし、費用の構造は一定とする。(平成21年度 第10問)

(単位:百万円)

	A部門	B部門	C部門	合計
売上高	1,800	1,200	1,000	4,000
変動費	1,080	840	580	2,500
個別固定費	240	220	100	560
共通固定費配賦額	280	240	120	640
純利益	()	()	()	300

設問1

Y社全体に対するA部門の貢献を示す利益額として、最も適切なものはどれか(単位:百万円)。

ア 140 イ 200 ウ 320 エ 480

解答 エ

Y社 部門別損益計算書

(単位:百万円)

	A部門	B部門	C部門	合計
売上高	1,800	1,200	1,000	4,000
変動費	1,080	840	580	2,500
限界利益	720	360	420	1,500
個別固定費	240	220	100	560
貢献利益	480	140	320	940
共通固定費配賦額	280	240	120	640
純利益	200	-100	200	300

設問2

仮にB部門を廃止するとすれば、Y社全体の純利益の増減額として、最も適切なものはどれか（単位：百万円）。ただし、共通固定費は発生を回避することができないものとする。

ア 減少140

イ 減少940

ウ 増加100

エ 増加320

解答 ア

Y社 B部門を廃止した場合の部門別損益計算書

(単位:百万円)

	A部門	B部門	C部門	合計
売上高	1,800		1,000	2,800
変動費	1,080		580	1,660
限界利益	720		420	1,140
個別固定費	240		100	340
貢献利益	480		320	800
共通固定費配賦額	280	240	120	640
純利益	200	-240	200	160